

春祭り

100戸に満たない集落に「野々宮神社」があります。年2回春と秋に祭りがあり、各地区輪番制で祭りの世話役「当元」が回ってきました。

神社と言っても海拔300m程度の山頂に有り、行事に使う材料は全て手持ちで登らなくてはなりません。「当元」で比較的若い？氏子10名で材料を持って登り、会場設営、振る舞い等、その音頭は、地区の班長が取り仕切ります。今年度は小生がその役目を負うことになりました。以下、春祭り裏方準備状況です。



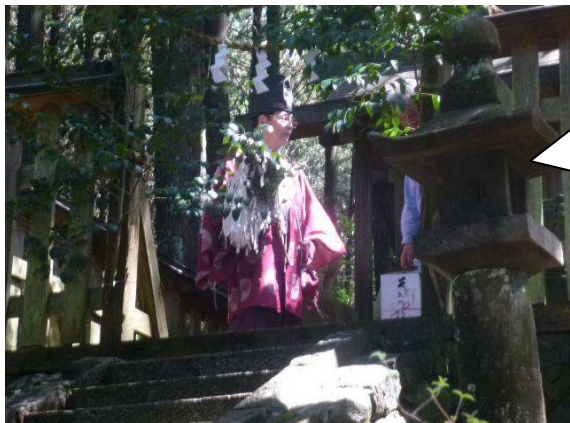
名前は「野々宮神社」
2本のぼりを立て、
榊、や国旗を掲げて
ゆきます。

一方、社では、天井裏
の倉庫からテーブル、祭
壇一式、ゴザを下ろし
設営します。



人参、大根、牛蒡、り
んご、水、塩鯖、お神
酒、ろうそく、お洗米、
塩、するめ、昆布を備
えます。更に水を20L
持って登りました！

会場準備完了！神主
さんを待つだけです。



神主さん登場！毎回
300m程の山を登りの
野々宮神社に駆けつ
けてくれます。

総代や役員に神事を
行う神主さん。全ての
神事を終了後ささや
かな宴会に入ります。



当元は、宴会の裏方
に徹し、火を起し・お
茶・お酒・塩鯖焼き等
振る舞う事になりま
す。

行事が終わり「当元」
は開放され食事。会
場の片付け火の始末
をして春祭りは終了。



山里の集落も、限界集落一步手前の人的構成となっており、小生はむしろ若い部類に入ります。話題は何時まで300m山頂の神社のお守が出来るか？に集中しますが、結論なき論議で終わります。こうした、古くからの風習は各地で簡素化や廃止されていますが、我が山里の神社神事は今後どうなるか？不安は絶えません。